

平成 28 年度「基礎・基本」定着状況調査(中学校)

国 語

平均通過率

市 76.6%
県 (69.7%)

※ () 内は県平均
を表します。

領域等の定着状況

<タイプⅠ 基本問題>

【タイプⅠ】 78.9% (71.8%)

【聞 く こ と】 93.0% (87.9%)

【書 く こ と】 71.6% (58.7%)

【読 む こ と】 67.1% (62.7%)

【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】 82.1% (75.6%)

<タイプⅡ 活用問題>

【タイプⅡ】 66.8% (60.6%)

○タイプⅠ (基本問題)

通過率 60%以上の設問(上位3問)

- 文語のきまり
(設問二2(1)) 97.2% (93.8%)
- 要点の聞き取り
(設問一1) 95.1% (89.4%)
- 目的に応じた取材
(設問一2) 90.9% (86.4%)

通過率 60%未満の設問

- 要旨の把握
(設問三5) 58.0% (53.7%)
- 叙述の仕方の確認
(設問四3) 59.4% (35.9%)

○タイプⅡ (活用問題)

通過率 60%以上の設問

- 情報の取り出し
(設問五1(2)) 87.4% (81.4%)
- 目的に応じた引用
(設問五2引用) 68.5% (58.5%)
- 情報の取り出し
(設問五1(1)) 63.6% (63.6%)

通過率 60%未満の設問

- 根拠に基づいた考えの記述
(設問五2記述) 47.6% (38.9%)

結果から考える

○考察

平均通過率が60%を超え、県の平均通過率より6.9ポイント上回っていることから、基礎的・基本的な学習内容はおおむね定着していると考えられます。

○今後の指導について

今後、取り組む必要があるのは、「読むこと」、「書くこと」に関する指導です。文章の展開に即して内容を読み取らせる指導や、書いた文章を読み返し、分かりやすい文章に推敲させる指導を行う必要があります。

また、タイプⅡにおいて、根拠や事実に基づいて自分の考えを記述させる指導を充実させる必要があります。

平成 28 年度 「基礎・基本」定着状況調査(中学校)

数 学

平均通過率

市 70.6%
県 (66.8%)

※ () 内は県平均
を表します。

領域等の定着状況

<タイプⅠ 基本問題>

【タイプⅠ】 73.5% (69.6%)

【数と式】 74.3% (69.6%)

【図形】 74.8% (67.9%)

【関数】 76.6% (77.8%)

【資料の活用】 64.7% (64.0%)

<タイプⅡ 活用問題>

【タイプⅡ】 60.7% (57.3%)

○タイプⅠ (基本問題)

通過率 60%以上の設問(上位3問)

- 小数の減法
(設問1(1)) 96.5% (94.6%)
- 四則の計算
(設問1(2)) 92.3% (89.5%)
- 式の値
(設問1(5)) 90.2% (85.1%)

通過率 60%未満の設問

- 文字式の表し方
(設問2(2)) 43.4% (34.3%)
- 文字式の表し方
(設問2(1)) 44.1% (38.2%)

○タイプⅡ (活用問題)

通過率 60%以上の設問

- 事象の図形的な考察
(設問9) 81.1% (81.2%)
- 情報の適切な選択と判断
(設問11(1)) 63.6% (60.1%)
- 情報の適切な選択と判断
(設問11(2)) 62.9% (54.7%)

通過率 60%未満の設問

- 事象の解釈と表現
(設問10(2)) 39.2% (36.8%)
- 事象の解釈と問題解決の方法
(設問10(1)) 56.6% (53.6%)

○考察

平均通過率が60%を超え、県の平均通過率より3.8ポイント上回っていることから、基礎的・基本的な学習内容はおおむね定着していると考えられます。

○今後の指導について

今後、取り組む必要があるのは、「資料の活用」に関する指導です。資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明させる指導を行う必要があります。

また、タイプⅡにおいて、具体的な事象を式の意味に即して解釈し、その結果について考えさせたり、問題解決の方法を数学的な表現を用いて説明させたりする指導を充実させる必要があります。

平成 28 年度 「基礎・基本」定着状況調査(中学校)

理 科

平均通過率

市 52.0%
県 (51.8%)

※ () 内は県平均
を表します。

領域等の定着状況

<タイプⅠ 基本問題>

【タイプⅠ】 54.3% (54.4%)

【生 物】 58.2% (57.4%)

【化 学】 42.8% (44.1%)

【物 理】 49.2% (49.8%)

【地 学】 59.7% (57.4%)

<タイプⅡ 活用問題>

【タイプⅡ】 49.0% (49.8%)

○タイプⅠ (基本問題)

通過率 60%以上の設問(上位3問)

- 振動と音
(設問1(1)) 81.8% (80.3%)
- 根のようすによる分類
(設問5(2)) 78.3% (69.4%)
- 地震計の記録の読み取り
(設問7(2)) 74.8% (70.3%)

通過率 60%未満の設問(下位3問)

- 力の表し方
(設問2(2)) 5.6% (12.2%)
- 液体の混合物を分離する方法
(設問4(3)) 27.3% (25.0%)
- 質量
(設問2(1)) 27.3% (33.1%)

○タイプⅡ (活用問題)

通過率 60%以上の設問

- コケ植物の生息環境
(設問6(3)) 84.6% (79.8%)
- 仮説に基づいた実験結果の予想
(設問1(2)) 81.8% (74.4%)
- 水溶液の均一性
(設問3(1)) 66.4% (68.4%)

通過率 60%未満の設問(下位3問)

- 溶質の再結晶
(設問3(2)) 18.9% (22.6%)
- 単子葉類と判断する根拠
(設問5(1)) 19.6% (19.7%)
- 実験結果を分析・解釈して、結論を導き出す
(設問4(4)) 25.2% (31.4%)

結果から見えること

○考察

県の平均通過率を0.2ポイント上回っているものの、平均通過率が60%を下回っており、基礎的・基本的な学習の定着に課題があります。

○今後の指導について

今後、取り組む必要があるのは、60%を下回っている「生物」、「物理」、「化学」、「地学」の全領域に関する指導です。特に、目的意識を持った観察、実験を行い、自然事象についての知識・理解の定着を図る指導が必要です。

また、タイプⅡにおいて、理科で学習した知識・技能に関連した自然の事物・現象や科学技術などについて、考えたり説明させたりする指導を充実させる必要があります。

平成 28 年度 「基礎・基本」定着状況調査(中学校)

英 語

平均通過率

市 74.9%
県 (69.6%)

※ () 内は県平均
を表します。

領域等の定着状況

<タイプⅠ 基本問題>

【タイプⅠ】 79.2% (72.6%)
【聞くこと】 77.1% (71.2%)
【読むこと】 78.5% (74.9%)
【書くこと】 74.3% (68.3%)
【話すこと】 88.5% (77.3%)

<タイプⅡ 活用問題>

【タイプⅡ】 51.1% (53.0%)

○タイプⅠ (基本問題)

通過率 60%以上の設問(上位3問)

- 自分の考えや気持ちなどが正しく伝わるように話す
(実技 4) 100.0% (97.6%)
- コミュニケーションへの積極性, コミュニケーションの継続
(実技 関・意・態) 99.3% (98.0%)
- リスニング問題 (英文の内容の理解)
(設問 3) 97.9% (96.1%)

通過率 60%未満の設問

- リスニング問題 (概要や要点の把握)
(設問 4) 57.7% (51.5%)

○タイプⅡ (活用問題)

通過率 60%以上の設問

- まとまりのある一貫した英語の文章を書く
(設問 12) 64.8% (64.8%)
- 情報を基にした概要や要点の理解
(設問 11) 3) 61.3% (62.9%)

通過率 60%未満の設問

- 適切な質問を考え英文を書く
(設問 11) 1) 28.9% (32.2%)
- 根拠となる英文の読み取り
(設問 11) 2) 49.3% (52.0%)

結果から考える

○考察

平均通過率が 60%を超え, 県の平均通過率より 5.3 ポイント上回っていることから, 基礎的・基本的な学習内容はおおむね定着していると考えられます。

○今後の指導について

今後, 取り組む必要があるのは, 外国語理解の能力の定着を図る指導です。「聞くこと」「読むこと」「書くこと」「話すこと」に関する活動をバランスよく取り入れ, コミュニケーション能力の基礎を養う指導が必要です。

また, タイプⅡにおいて, 情報を基に, 関連した質問を考えて英文で書かせるなど, 外国語表現の能力を高める指導を充実させる必要があります。